

# 子どもたちが釧路に愛着を持てる 環境教育活動 ～浜中町の事例から考える～

北海道教育大学釧路校

地域社会と環境研究室

赤坂 亜季美  
加藤 宗一郎  
坂本 佳史  
柴田 真由子  
野尻 智  
渡邊 愛

# 章立て

## 1. はじめに

- ・問題意識・研究目的・研究方法
- ・「環境教育活動」の定義
- ・自然体験がなぜ大切なのか

## 2. 研究概要

- ・釧路市に住む大学生の釧路市への愛着
- ・釧路市の子どもたちの声
- ・釧路市の環境に関する取り組み
- ・環境教育の現状
- ・浜中町の取り組み
- ・小学校との連携
- ・比較

## 3. 考察

## 4. 提言

## 5. おわりに

参考文献・謝辞



## 研究を発表するにあたって

はじめに、今回の研究内容にした理由として、教育実習で子どもたちの実際の声を聞いたことが挙げられる。教育実習という場を通して、子ども達が自然についてどのようなイメージや考えを持っているのか知ることが出来た。

そこで私たちは、釧路の広大な自然を生かした環境教育活動はできないか。またそれが子ども達が釧路に愛着を抱いてくれる、1つの指標となることはないのかと考えていくことにした。



## 教育実習で聞いた子ども達の声

「虫が嫌い」(小2・4/男女)

「冬は寒いから」(小5/男)

「危ないから」(小4/女)

「行く時間がない」(小4/女)

「釧路湿原に行ったことがない」(小5/女)

「自然に興味がない」(小5・6/男女)



# 問題意識

釧路市には、釧路湿原、釧路川、湖、森などの広大な自然があるが・・・

- ・子どもたちは、自然で遊ぶ機会が少ないのではないだろうか。
- ・自然という地域資源が活用されていないのではないだろうか。



- ・子ども達が、自然と触れ合うことで、釧路に対する愛着を深めるためには、何ができるだろうか。



# 研究目標

釧路市に愛着を持つ子どもを育てることを目標とする。そのための手段の一つとして、環境教育が挙げられる。幼い頃から自然に親しみを持ち続けられる取り組みや場作り、連携の在り方を明確にする。

# 研究方法

- アンケート調査(釧路市と浜中町の小学生・大学生を対象とした。)
- 実地調査(ワンダグリندا、エコクラブくしろ、イオンチアーズクラブ、霧多布湿原ナショナルトラストー子ども自然クラブ)



## 「環境教育活動」の定義

「環境教育」とは、環境の保全について理解を深めるために行われる環境保全に関する教育及び学習をいう。

(環境省より)



## なぜ自然と触れ合うことが大切なのか？

- 自然の中の新しい発見を五感で感じる事ができ、想像力を育てることができる。
- 自然と触れ合うことで、心技体を強くすることができる。
- 自然を「守る」という意識を育てることができる。
- 集団の中での協調性や連帯性を育てることができる。



社会で生きる力を育てることにつながる。





# 広大な自然を有する釧路市

まずは、釧路市についてまとめる。

今回、研究方法として釧路に対しての愛着を持っているか、また自然に対しどんなことを思っているかというアンケート(大学生・小学生対象)を実施した。また、環境教育活動を行っている団体にお話をうかがった。そこから私たちが感じたことやわかった事をまとめ、本テーマである子どもが釧路に愛着を持てる環境教育活動についてどのような事が考察できるか述べていきたいと思う。



# 釧路市について



←エゾシカ

丹頂鶴→



# 釧路市の自然

釧路湿原



釧路川



春採湖



夕日

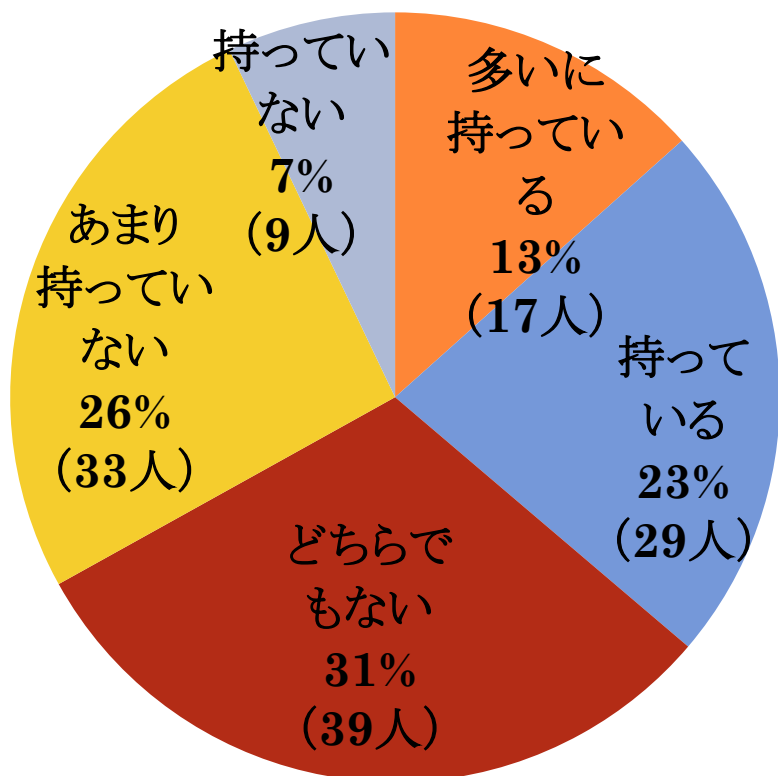


# 釧路市の大学生対象アンケート

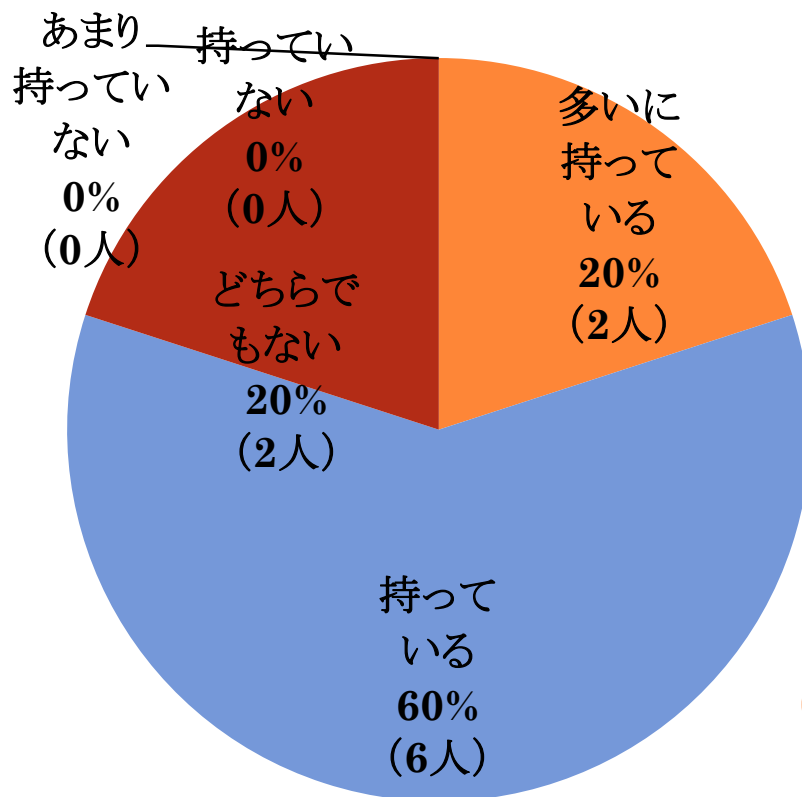
このアンケートは、釧路市の大学の学生(127人)を対象として11月に行いました。

Q. 釧路のまちに愛着を持っていますか。

釧路市の学生127人



その内、釧路市出身の学生10人



## 大学生のアンケートから

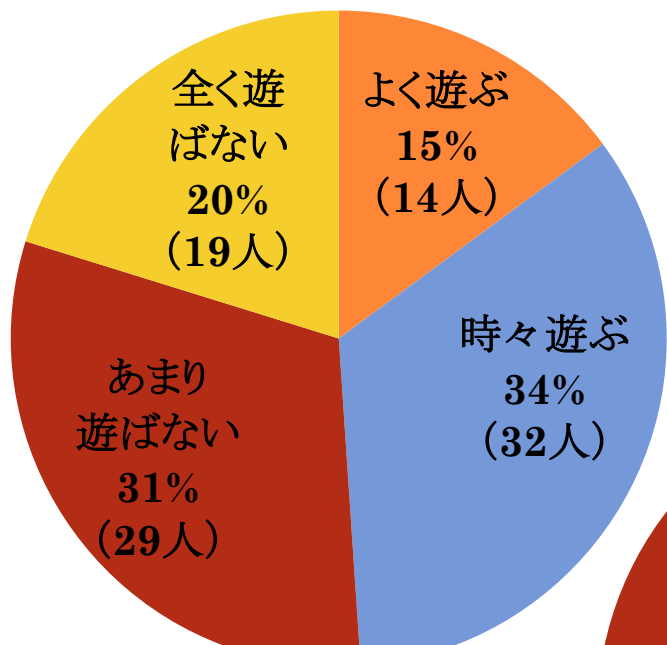
- 釧路市出身者は愛着を持っている人が多い。
- 他府県出身者が釧路より地元にも愛着を持っていたり、地元の方が便利だと思ったりするのはしょうがないと思うが、釧路出身者で「住み続けたい」と思っている人の割合が少ないのが問題だと思う。
- 他府県出身者で、釧路にすごく魅力を感じている人もいる。(自由回答より)



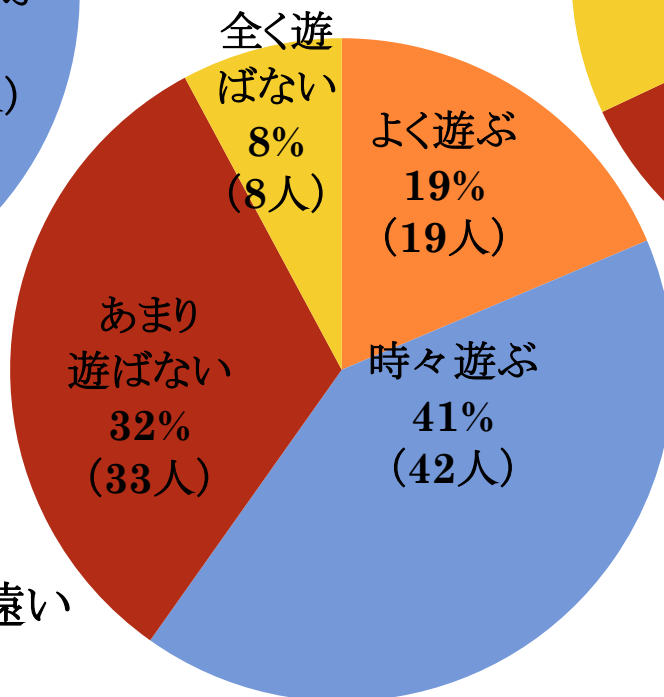
# 釧路市の小学生対象アンケート

このアンケートは、釧路市の小学生(221人)を対象に11月に行いました。

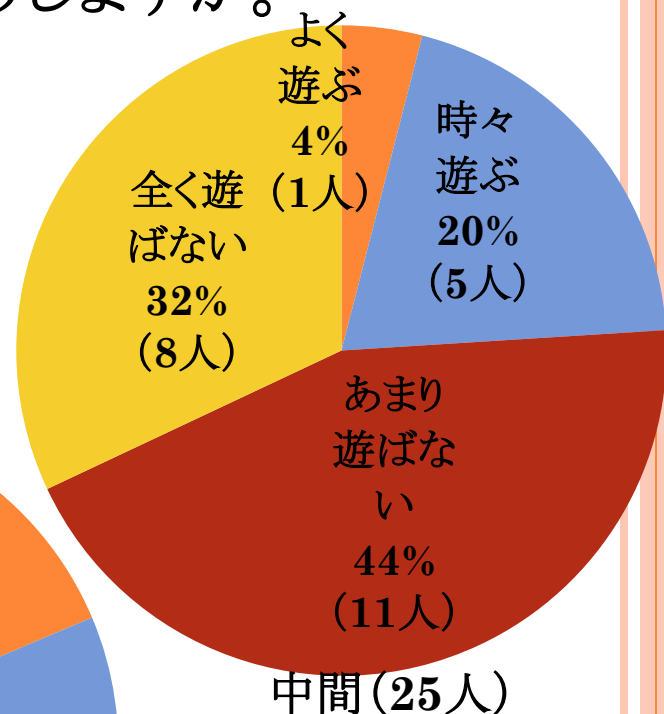
Q. 自然(森、川、湖、海)などで遊んだりしますか。



湿原からの距離が近い  
小学校(94人)



湿原からの距離が遠い  
小学校(102人)



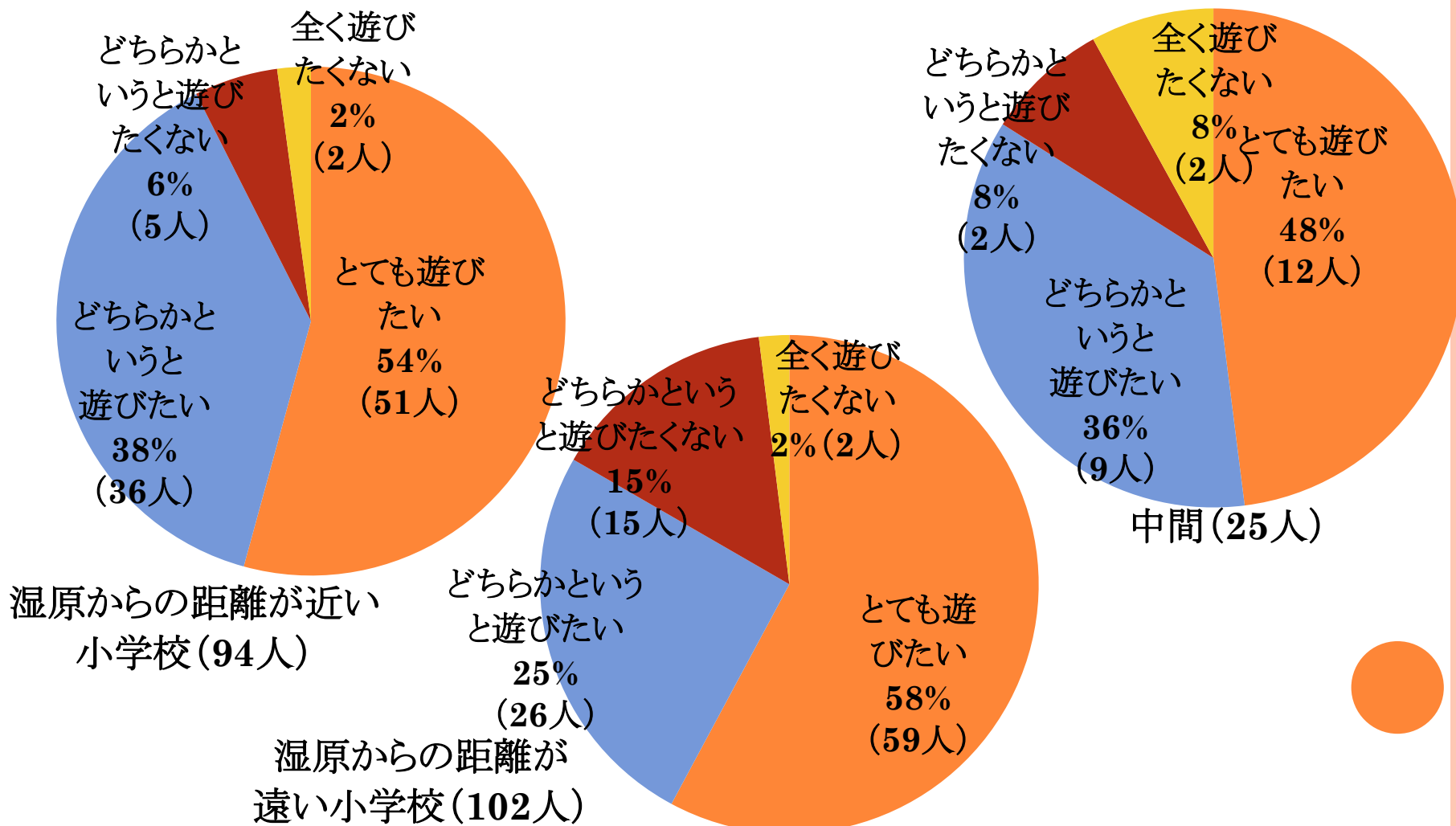
中間(25人)



# 釧路市の小学生対象アンケート

このアンケートは、釧路市の小学生(221人)を対象に11月に行いました。

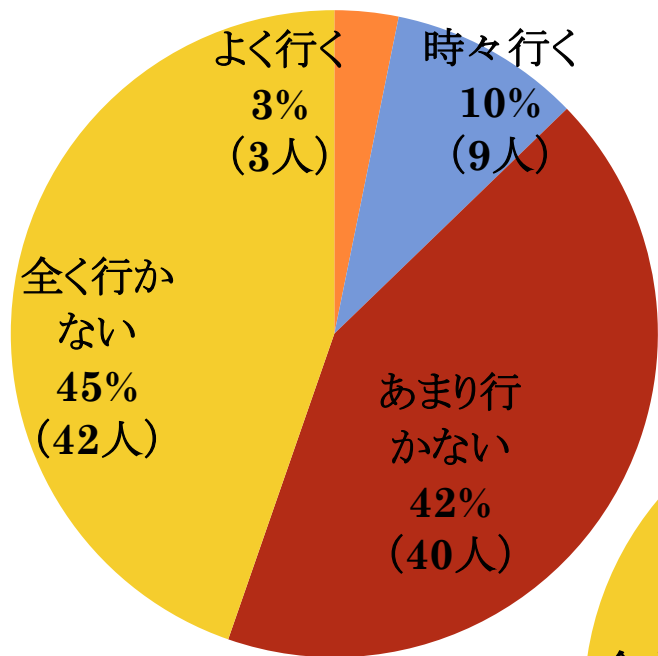
Q. 自然(森、川、湖、海)などで遊びたいですか。



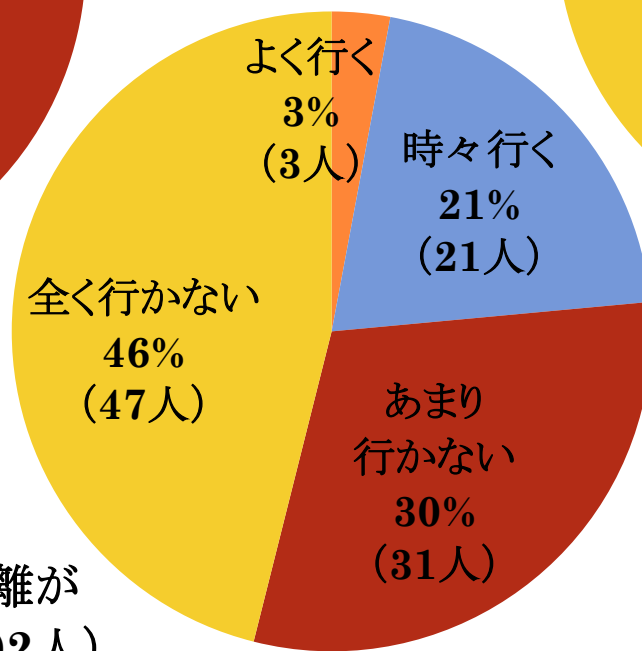
# 釧路市の小学生対象アンケート

このアンケートは、釧路市の小学生(221人)を対象に11月に行いました。

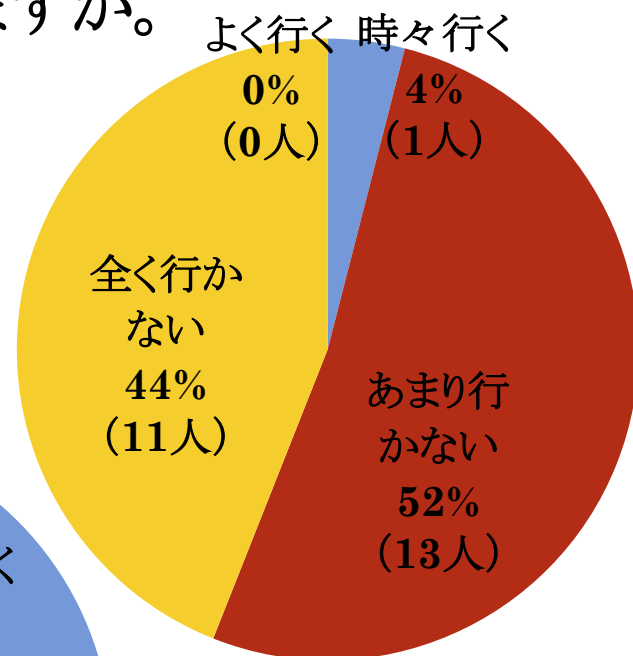
Q. 釧路湿原にどれくらい遊びに行きますか。



湿原からの距離が  
近い小学校(94人)



湿原からの距離が  
遠い小学校(102人)



中間(25人)





## 小学生のアンケートから

- (問いの「自然」という位置付けも曖昧←口頭)あまり自然で遊ばない子の方が多いが、遊びたいと思っている子も多い。
- 釧路湿原に近い小学校の子どもたちの方がよく湿原に遊びに行っていると思っていたが、湿原からの距離には関係なかった。
- 危ないからと保護者が止めているケースもある。(自由回答より)



# 釧路市の環境に関する取り組み

## 『こどもエコクラブくしろ』

郷土にある釧路湿原や、地域の身近な自然に直接ふれ、自然資源を大切にする優しい心を育てることを目的に1996年に発足。

現在、子ども8人の会員、2人のサポーターで活動が行われている。

活動内容は外来種の駆除、工作、植樹、ゴミ拾いなどで、保護者の参加は自由。

現在、会員がここ2～3年で0人という課題が挙げられている。

2011年 「こどもエコクラブ全国フィスティバル」

北海道代表クラブ参加

2012年 第19回コカコーラ環境教育賞「活動表彰部門」

優秀賞受賞



## 『イオンチアーズクラブ釧路』

環境に関する活動を実施し、環境に興味を持ち、考える力を育てるとともに、保護者がいない状況での集団行動を通じて社会的なルールやマナーを学ぶことを目的としている。

今年の活動は「リサイクル」をテーマに行われた。

イオンチアーズクラブ釧路は、2011年7月に発足し、他の団体とも連携しながら活動を行っている。

現在の会員は小学1～6年生の32名。

活動費は一切集めていない。

知識を押し付けるのではなく、体験することによって楽しみながら知識が増えることをねらいとしている。



釧路市には他にも『NPO法人トラストサル  
ン釧路』『NPO法人釧路湿原やちの会』な  
どさまざまな団体があり、それらの個々の  
団体を結びつけているのが

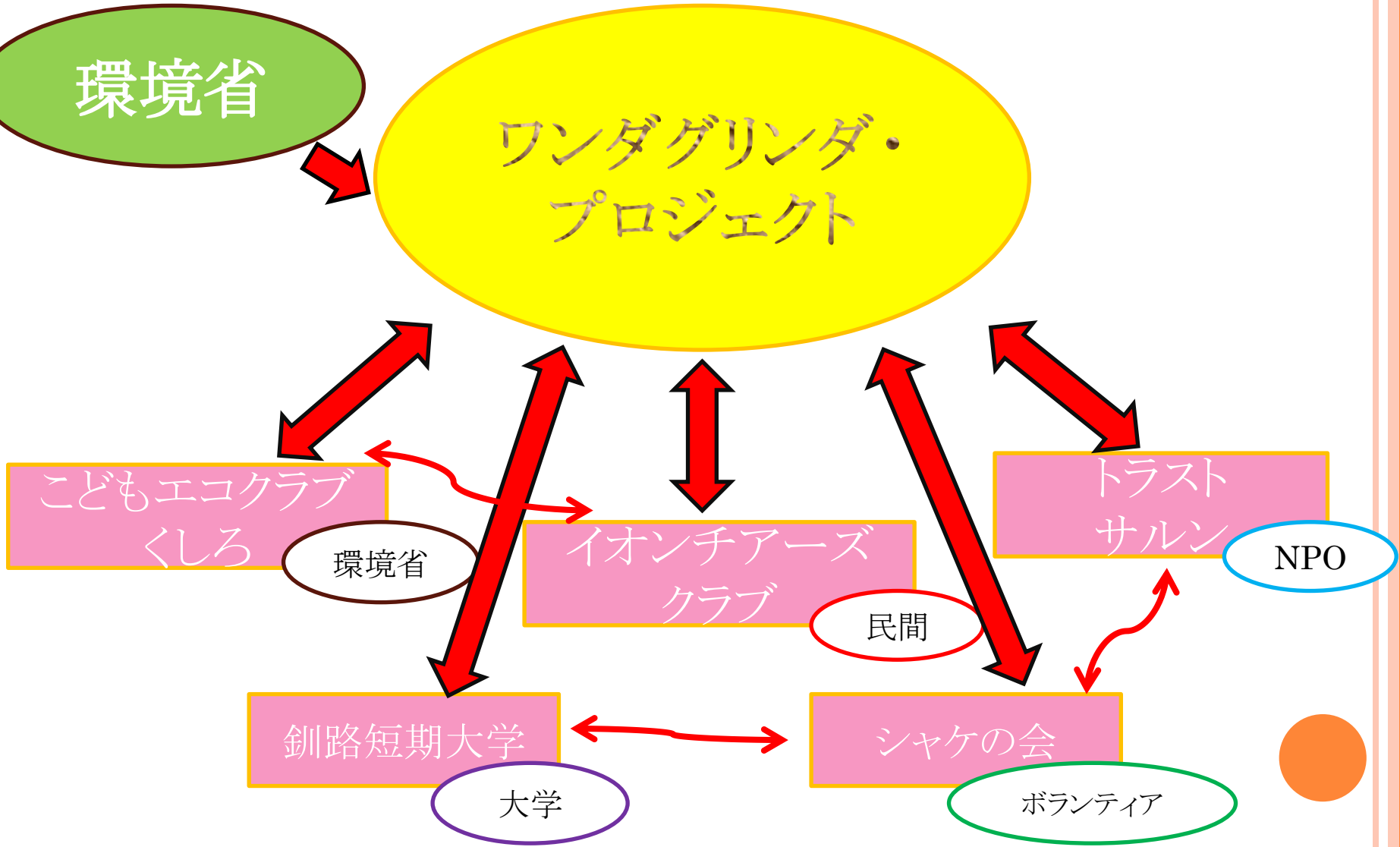
## 『ワンダグリンダ・プロジェクト』

＝釧路湿原自然再生普及行動計画

2005年設立 釧路湿原の保全・保護活動  
をしていた団体のボトムアップ、ネットワー  
クづくり・仲介役を行う先駆的な団体。



# ワンダグリнда・プロジェクトとは・・・



## 釧路市の活動を調べ、話を聞いてわかったこと

- 環境教育団体が多くあり、活動に対し熱心であることが分かった。
- 小学校との連携があまり取れていない
- ワンダグリンダ団体から様々な団体を結び付けたり、仲介を行ったりといった先駆的な団体がある。
- 活動に対する小学生の参加人数が少なくなっている。
- 活動に携わっている人が釧路市の人のためより地元にあった活動ができる。



## 市内の小学校の環境教育の現状

- 釧路には、学校が連携できる団体がたくさんある。
  - ・環境教育活動を行っている団体に話を伺った。→小学校によって、環境教育に対する意識に違いが見られる。
- 
- 環境教育を指導する側の人材育成を行っている。
  - ・教育実習や環境教育活動を行っている団体で実際に話を聞いて、環境教育について新任研修を受けてはいるが、授業に取り入れているところは少ない。→環境教育に対する指導する側の意識の差が見られる。



## 湿原という共通の資源を有する町から

•ほかの町や団体から釧路に取り入れることのできる考え方や活動はないのか。



以前研究室の活動で、浜中町の霧多布湿原ナショナルトラストに話を伺ったときに、霧多布湿原を使って子供達を集め、活動を行っているという話を聞いて興味を持っていたこと。また話の中で、環境教育活動を行っている団体と学校がつながりを持って活動を行っているということを知った。私たちは、同じ湿原という資源を有している浜中町の取り組みからなにか釧路に取り入れることのできるものがあるのではないかと考え、今回浜中町の事例から調べてみることにした。





# 釧路市と浜中町の場所



# 浜中町について

霧多布湿原



エトピリカ



# 浜中町の自然

エゾカンゾウ



ワタスゲ



霧多布岬



# 霧多布湿原トラストの概要

- 1986.8「霧多布湿原ファンクラブ」湿原民有地借り上げ開始。
- 1993.6 ラムサール条約登録湿地に指定。
- 2000.1 NPO法人「霧多布湿原トラスト」設立。  
民有地を買い取り保全するナショナルトラスト運動を展開。
- 2001.11 北海道遺産に認定。

## 活動の3本柱

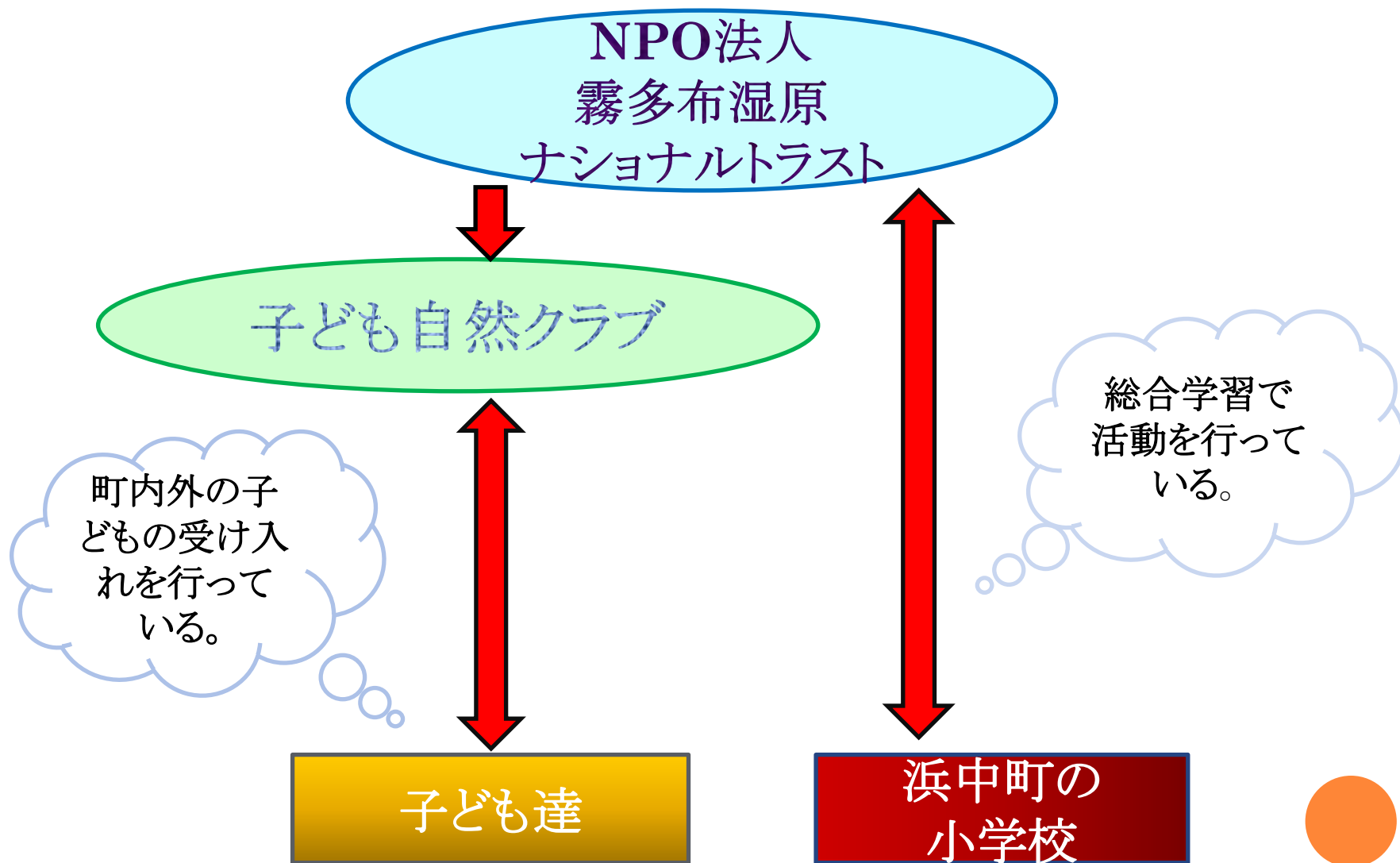
保全活動

自然再生

ファンづくり



# 霧多布湿原ナショナルトラストとは・・・



## 子ども自然クラブ

- ・2006年に設立し、現在会員数は町外も含め80人にのぼる。
- ・小学生を対象に地元の自然をフィールドとして廃校キャンプ、無人島探検、青空クッキングなど様々な体験型活動を展開する。
- ・保護者の理解、地元の漁師や農家の協力を得て活動している。

